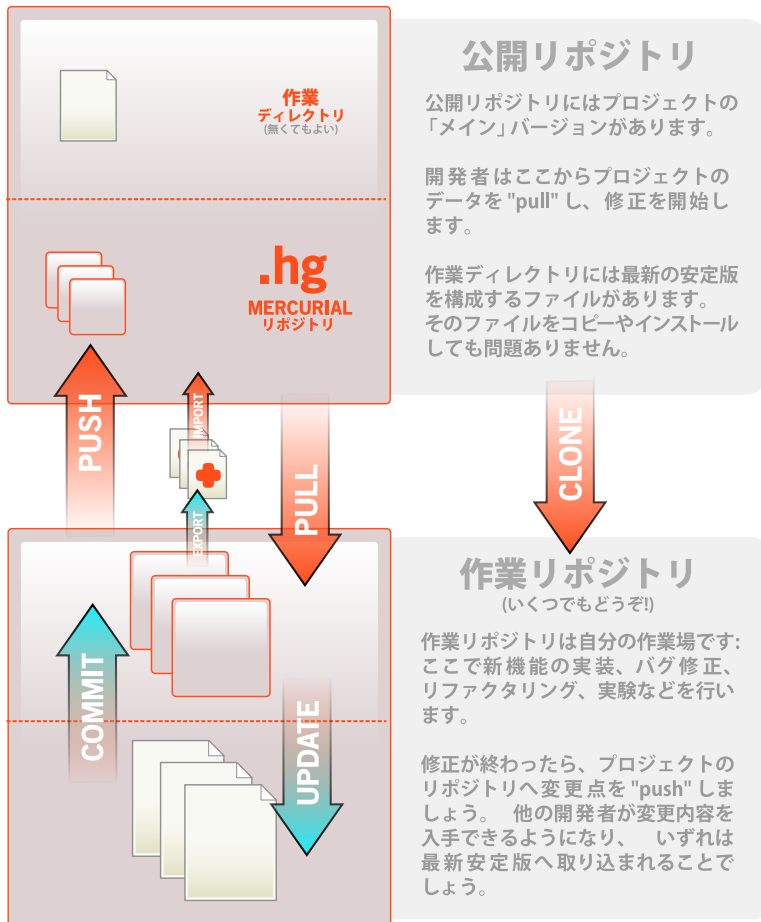


Mercurial Quick Start

<http://www.selenic.com/mercurial>



キホン

リポジトリを作る

```
$ hg init /mnt/projects/myproject
$ hg clone /mnt/projects/myproject \
~/workspace/myproject-wip
```

ファイルを管理

```
$ hg add FILE...
$ hg remove FILE...
$ hg rename OLD NEW
```

変更点を確認

```
$ hg status
$ hg diff -rOLDREVISION FILE...
```

変更内容をコミット

```
$ hg commit
```

うっかりコミットを元に戻す

```
$ hg rollback (で、最初から)
```

変更内容を公開

```
$ hg push /mnt/projects/myproject
```

チーム作業

メインと同期

```
$ hg pull /mnt/projects/myproject
$ hg update (ファイルを最新バージョンへ)
(pull で別のブランチができた時は merge が必要)
```

自分の変更をメインとマージ

```
$ hg merge PULLEDREV (衝突するかも)
で
$ hg commit (さらに push とか)
```

パッチを作る

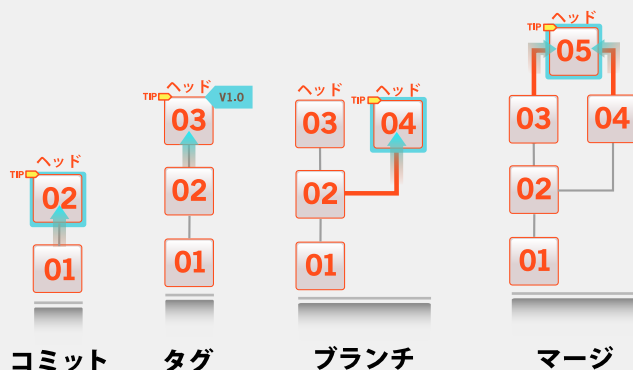
```
$ hg export FROMREV > feature.patch
```

で、他の人は好きなだけパッチを当てたり、レビューしたりできる。

変更をまとめて他のリポジトリへ

```
$ hg bundle allchanges.hg ~/otherrepo
```

すると、otherrepo のメンテナはサクッと変更内容を取り込める。(unbundle で)



リビジョン番号



69d51f99ddb2...
チェンジセットID

リビジョン番号は自分の(作業中の)リポジトリ固有で、「内部的」には利用できます。

しかし、他の人とやりとりする時は、一意なチェンジセットIDを使うようにしてください。

プロジェクトのリポジトリから r45 を pull した時、作業リポジトリの最終バージョンが Rev. 40 であるとすれば、プロジェクトの Rev. 45 は手元では Rev. 41 になるということです。対して、チェンジセットIDは永遠に不変です。

その他

前後のリビジョンへスイッチ

```
$ hg update -C REVISION
```

リビジョンを「タグ」づけ

```
$ hg tag v1.0
```

変更履歴をチェック

```
$ hg log
```